



十二月の幼稚園

堀合文子

十二月の保育

幼稚園……堀合文子  
 保育所……鈴木とく

主題

年少組

年長組

○お正月のしたく。

社会のお正月のしたくがはじまると共に子供達も自分達でお正月の玩具をつくりながらお正月のくるのをたのしみにまつ

○クリスマス

宗教的という意味でなく、これも社会一般のクリスマスのふんいきにひたり、一つのお祭りとして、飾りものを作ったり、贈物をつくつたりして子供達のたのしみを一つ加えてやるつもりで計画をすすめたい。

○お正月のしたく。

年少組と同じだが、観察を少し細かに、遊ぶ玩具も年少組より複雑なものをえらぶ。

○クリスマス

年少組と同じ。飾りつけは、年少の時はこちらで案を立ててやるが、もう年長組では自分達で相談してなるべく自分達で作らせるようにしたい。自分達で飾りつけたクリスマスは、たとえそれが大人のと比較して、美しさにかけていても子供達のたのしみを一そう加える事でしよう。

観  
察

- もみの木
- クリスマス話
- ねずみの餅ひき
- にこにこだるまさん

○暮の町

町もお正月のしたくで忙がしく種々お正月のものが売出されてくるので登園の折外出の折に暮の町をみて来て、話合つて観察をふかめる。即ち社会見学であるから、子供達自身経験させてやらねばならないから家庭でも幼稚園でもその様な環境をつくつてやるとよい。

○冬の動物、植物

暖かい日によつて庭を散歩しながら話合ふ。今までのいた動物達、(かえる、とかげ、蝶々等)は冬の寒い間は土の中にすんでいる事。枯れたとおもわれる植物はどうしているかを大体話合つて、きかせる。

○冬至

話合ひで一年中一番昼が短く夜が長い事、それから少しづつ、昼が又長くなつてくる事をきかせる。

○山茶花

すつかり花がなくなり淋しくなつているのに、寒さにもまげず美しく咲く、この花を、お庭にあればみにゆくし、お部屋に飾つて皆でたのしむ。

- ものいう木
- ねずみの引越
- クリスマス話
- キリスト

○暮の町

年少組と同じだが。お正月に使う品物、門松、輪かざり、注連等を少しくわしく話合つてみたり、又暮の大売出しの様子や普段とちがうにぎやかな様子を絵にかせたりして観察を細かにさせる。

○冬の動物、植物

年少と同じ

○冬至

年少と同じ

○山茶花

年少と同じ

○お正月の花

お正月につかう花として葉ばたん、松、水仙、千鶴等、寒くて花のない時に、用いられ、お正月の部屋を美しくするものとして、お花やさんでみたりして話合ふ。

リズム

○お餅つき

○お正月もあとわずかとなるとお餅つきの音もきかれるようになる。日本の一つの風習としてお餅つきの様子をみせたいものである。みられなくても、歌やゆうぎをしたり、絵をみて話合つたりしてお正月をたのしみにまつ気分と共に味わいたい。

○ゆき

うたを教えると同時に、その曲でゆきのリズム遊び、自由表現をさせる。ゆきのふる表現、ゆきでだるまさん作つたりゆき合戦したりする。表現を曲にあわせてするゆき合戦のように遊びの表現になると、一体にだれてしまつて、曲にあわなかつたり終りにはさわぎになつてしまいがちであるからその点曲にあわせてという事も注意しながら、たのしくやらせるようにうながす。

○一、二、三でしやがみましよう

○もちつき

これも振付けられたゆうぎから発展して、お餅をついたり、こねたり、まるめたり、食べたりの表現をしてリズム遊びをする。常に曲にあわせて表現する事を忘れてはならない

○クリスマス、うた

数が少いので、適当にいつもその園で用いているのをつかえればよい。

○ゆき

年少組の時したが年長でも又取扱う。その表現はきつと年少の時より進歩した、又おもしろい表現になつてきている事と  
思う。

○お正月のゆめ

○おもちやのへいたい

○もちつき

復習の意味です。

これも自由に表現させてみたい。

○サンタのおちさん

○クリスマス、リズム遊び

年少組では筋を大体こちらで作つてやらせたが、年長組では、相談して筋を皆でつくつてもよいし、自由にはじめからやらせてもおもしろいのが出るとおもふ。

又年少組の例にもう少し曲をはさんで複雑にして用いてもよい。

例サンタクロース

○クリスマスリズム遊び

サンタクロースになつたり、子供達になつて玩具のおくりものをもらつたりする表現をして、一つのお話にすると又おもしろい遊びが出来る。

例、ゆきのちらちら降る夜（ゆきの子供が出てゆきの降る表現）

どの家の子供もサンタクロースのおぢいさんをまつてすやすやねています。（各家に子供達がねてる表現）

サンタクロースのおぢいさんは北の国からお玩具の一杯入った袋を肩にそりにのつてやつて来ます。（サンタクロースになる子供スキップで出てくる）

よい子の家へお玩具をおいてゆきます。（ねている子供の前へ一つ一つお玩具をくばる表現）

子供達はサンタクロースが帰つてからめをさましおもちやの贈物によるこんで皆でゆうぎをする。（めを賞す表現。後でうれしい表現のゆうぎを皆でする）

この様に年少組だから簡単な筋をつくり。その表現は子供達に自由にさせる。その一つ一つのつなぎ目には先生の方で曲を入れてあげると、一そうリズム遊びもおもしろい音楽的なものになる。

（例 楽隊等その間に入れてもおもしろい）

製作

○すごろく作り

ハトロン紙又は新聞紙半分、画洋紙十六切に絵をかいた

○カレンダー作り

一ヶ月のカレンダーを、わくだけ印刷してそこへ数字をか

槽画

ものを十二枚すぐろくのようにはりつける。ふり出し、上り等、墨でかいてはりつける。その絵は、何のすぐろくを作るかはじめに相談して自分のときめておく。それによつてその絵を連続的にかくとよいものが出来る。

○ふく笑い作り

これは、印刷してあげてぬつて切るだけである。

○羽子板、凧に絵をかく

白い羽子板や凧に絵をえのぐでかく。

○クリスマス飾り

お星様、ろうそく、靴下、輪つなぎサンタクロースのお面等ぬつて、切る仕事。年少では先生が指導でより美しく飾つて上げるのがよいでしょう。

- 自由に(クレヨン・えのぐ)
- ぬりえ

きこみその上にその月の絵をかく。数字は教えるのでなく、御手本をみせて、それをまねしてかゝせる程度にする。どこまでも学校的な扱いでなく、数字を絵として扱つてほしい。

○カルタ作り

一組で一つのカルタを共同製作する。いろはにちまつて、皆でその読札の文句を考える。仕事は分担してやらせる。紙はボール紙にはりつけてもよいし、又紙にかいて、煙草の箱を台紙にして張りつけてもよい。

○羽子板、凧に絵をかく

白い羽子板、凧に自分で好きにえのぐで絵をかく。

自分がかいた羽子板で羽根をついたり凧をあげたりするのはたのしいものです。羽子板は道具があれば、絵絵にするともおもしろみ加わる。

○クリスマス飾り作り

相談してどうゆうものを飾りつけるかきめる。分担して色々につくる。

大体子供達にさせるが裝飾であるからやはり美しくしてやるために先生はその美しさを援助して上げねばならない。そして子供と先生と一緒にやつて作り上げたい。

- 自由に(クレヨン・えのぐ)
- 山茶花の写生

<p>健康の習慣</p> <p>○十二月の身長体重の測定</p> <p>○お天気のよい日は外でよく遊びましょう</p> <p>○うがいをしていねいにしましょう</p>	<p>よき習慣</p> <p>○お友達とけんかをしない様にしましょう</p> <p>○自分で遊んだものは必ず自分でしましましょう</p>	<p>行事</p> <p>○第二保育期終了式</p>
<p>○ぬりえ</p> <p>○十二月の身長体重測定</p> <p>○お天気のよい日は外でよく遊びましょう</p> <p>○うがいをしていねいにしましょう</p>	<p>○乗物の中では静かにしましょう</p> <p>○誰にでも挨拶(朝や帰り)が出来る人になりましょう</p>	<p>○第一保育期終了式</p>

## 十二月の保育所

鈴木とく

幼児にとつて、十二月は何かを待ちももうける楽しい月です。夫々の年令でまとまつた、集団生活を続けて来ましたが、共同生活での学習の上からも、生活、それ自体の上でも、各年令、各組なりに、何か骨組が出来上る月である様に思われます。

何かをやるにしても、年少組、四才児組、年長組、夫々の年令なりに、何かしつかりとして来た感じが受取られます。これから続く冬の四カ月が、丁度、秋播き種が、地中で春の開花の為に根を張る様に、その年代なりの活動を、肉づけする様に、考えて、保育の計

画をたてる上に配慮したらと思います。  
例えば、

四月から、夫々に遊びや生活指導で計画され、実施されたことがどれだけ幼児自身のものとなつているか、あらわせる様な保育の計画。火災予防週間、交通安全週間等にもなむ、保育所内での待避、集合の訓練。

○巷の売出しとか、クリスマスセールにちなむ店屋ごっこ。  
○信仰の有無に拘らず一つの年中行事の感のあるクリスマスのプレゼント製作や、その日のお祝いの集りにすること。  
これらを、新しい材料でするのでなく、これ迄の生活で、自由に、自分のものとしてつかえる様になつたものを發揮させる様にしたいのです。

又、どんな幼児が、それらの、何と何を身につけ得ないでいるか